

学校運営計画（4月）				評価	
学校教育目標		地域共創の理念の下、校訓「向学、忠恕、壮健」を教育指針とし、「志をもって意欲的に学び、自律心と素直さそして思いやりの心を持つ、逞しい生徒」を育成する。			A
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標	
<p>「新たな学びプロジェクト」研究開発校として、3年間の研究成果をまとめ、発表した。生徒が主体的に学習活動に取り組む姿が見られるようになり、授業改善が進んだことが成果である。課題としては、学校生活への充実感・達成感が十分高まっていないことや、学びの成果を実感しきれていないことがある。今後は、生徒一人一人が主役となり魅力あふれる学校に成長できるよう学校と地域が一体となり、「日本一楽しい、美しい、元気な学校」の実現を目指す。</p>		創立10周年記念式典及び事業をとおして、教育活動の充実を図る。	○教育課程の特色化を図るとともに、「日本一楽しい、美しい、元気な学校」を実現する。		
		授業改善に積極的に取り組み、自ら学ぶ意欲を喚起させ、確かな学力の育成を図る。	○「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生徒が学びの成果を実感できる朝倉光陽バージョンを確立する。		
		人権感覚を身に付けさせ、思いやりと感謝の心を育み、いじめの撲滅に取り組む。	○人権同和教育を推進し、人権感覚豊かな生徒の育成を行う。 ○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員と連携し、個に応じた指導を充実する。		
		「鍛ほめ光陽メソッド」の指導方法を確立し、生徒の生きる力と可能性を伸ばす。	○生徒が主体的にチャレンジし続けることができるよう、達成目標にそった学習プロセスを評価しながら学習支援を進めていく。		
		危機管理体制を強化する。	○生徒理解を深め、生徒の変化に素早く対応するとともに、日常の「安心・安全」な教育環境及び予期せぬ自然災害等にも対応できる体制を整える。		
		広報活動を充実させる。	○中学校の生徒、保護者及び教師からの視点に立ち、本校の魅力と強みを効果的に広報していく。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	数値目標	評価（3月）	今後の主な課題
学校経営	学校教育目標及び本年度の教育重点目標の具現化に向けて、経営にあたる。	創立10周年記念式典及び事業を通して、生徒及び職員の学校への帰属意識を高め、生徒アンケートにおける学校生活満足度を向上させる。	10ポイントアップ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・光陽スタイルの定着に向け、「新たな学びプロジェクト」の成果を教師間で共有し、指導方法を統一するようにしたことで主体的に学ぶ生徒の姿が見られるようになってきた。 ・創立10周年記念に関する行事を中心に、生徒会の活動に自主的・創造的な取組が多くみられるようになった。今後も、生徒の学習活動がより自発的なものになるよう、個の能力に応じた学習指導を進めていくとともにキャリア教育を充実し、地域で活躍できる人材にレベルアップすることが課題である。 ・中学生や保護者に本校の強みを理解しやすいよう学校紹介動画やWeb広告を積極的に活用し、本校のイメージアップを図った。今後は、スマートホン対応のホームページを準備することで中学生や保護者が本校のことを理解をしやすくしていく。 ・道徳教育を充実させ、生徒の規範意識を高めることにより、自尊感情を高めていくことが課題である。
		「福岡県立高校『新たな学びプロジェクト』」の研究開発校としての成果を活かし、生徒が主体的に学ぶ教育活動を推進するとともに教員の資質向上を図る。		A	
	生徒理解および進路実現のための個人面談を継続的に行い、生徒のキャリア意識を計画的、体系的に醸成する。	個人面談4回以上	A		
	中学校に本校の教育内容を理解してもらう取り組みを推進する。中学校訪問を計画的に実施し、出前授業も積極的に行う。	出前授業学期1回以上	B		
定員割れの解消を最大の課題ととらえ、地域の信頼と期待に応えられる学校経営を目指す。	本校のPRのための広報紙、動画等を作成し、本校の魅力をダイレクトに伝える広報物による中学校への説明会を行う。		A	B	
	保護者や関係機関との連携強化により、中退者や問題行動を減らし、地域からの信頼を高める教育活動を実践する。	中退者ゼロを目指す。	B		
教務	基本的生活・学習態度の確立	進路指導部・生徒指導部・学年団と連携し、挨拶等の礼法指導の徹底や学習環境の整備に努める。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席・早退数が依然として多い。次年度に向け、遅刻者数を半減させる取り組みを検討する。 ・成績に課題がある生徒に対して個別の学習指導を継続して実施することができた。今後は、教科担任会を、定期的に行い、情報交換を通じて生徒の把握と授業規律の徹底を目指す。 ・高校3年間を見通した総合的な探究の時間の構築のため、学年をはじめ他の分掌と連携し、充実のための具体策を検討する。
		学年団と連携し、遅刻・欠席・早退者の減少を図る。		B	
		生徒情報交換会を通じ、成績不振者に対して早めの指導を励行する。		A	
	授業の充実と改善	授業のめあてとまとめを明確にし、わかりやすい授業を目指す。		A	
		教科担当や学年団等との連携を強化し、授業規律の改善を図る。		B	
	学ぶ意欲を高揚させ、確かな学力の定着を図るため、ICTの活用や協働的に学ぶ授業を推進する。		B		
校務の効率化	各学年、各部、各教科に対して、先を見通した提案を心がけ連絡調整の円滑化を図る。		A	A	
	学校ポータルサイト等を利用し、校務処理の効率的運用に努める。		A		
生徒指導	規範意識の育成	登校指導を通して、生徒の変化に早急に対応し、挨拶の励行や服装指導に努める。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に取り組んだあいさつ運動により挨拶できる生徒が増えてきた。今後も生徒の自覚を促すため、粘り強い指導を続けていく。 ・問題行動防止や中途退学防止に向け職員間の情報共有を丁寧に行うとともに、全職員で規範意識を高める指導を徹底する。 ・アルバイトの目的や手続きについて職員が共通理解するとともに、生徒への事前指導を徹底する。 ・頭髮指導や特別指導に関する指導方法について、全職員の共通理解を図りながら必要に応じて見直しを行う。 ・保健環境部、SC、SSWとも協力し、合理的配慮の必要な生徒に対する指導方法を検討する。 ・服装や挨拶の励行のため、全職員の共通理解を図る手立てを考える。
		全職員の共通理解のもと、カード指導を徹底し、制服の着こなし向上を目指す。		A	
		全校集会を通して、規範意識を高め、安全で安心できる学校づくりを目指す。	月1回	B	
		中学校訪問を通して情報交換を行い、問題行動や中途退学防止に努める。	年3回	A	
		関係機関と情報交換を行い、問題行動の防止に努める。	年3回	A	
	外部講師を招聘し、非行防止に努める。	年4回	A		
	生徒会活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、生徒一人一人が充実した生活を送ることができ環境づくりに努める。		B	
生徒会を中心に、委員会活動や文化祭、体育祭等の学校行事の活性化を図る。			A		

進路指導	6年連続進学・就職100%の希望進路実現を目指す。	計画的に進路関係行事を実施し、職業観の育成や進路意識の向上につなげる。		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が進路を決定することができた。 ・生徒の自己実現に向け、生徒が主体的に進路選択する能力や態度を育成できるよう、1年次から3年次まで系統的に学べるようなキャリア教育の内容や指導方法を精選する。 ・校内検定は基礎学力の定着と向上を目標に年3回実施してきた。今後は、今までの目標の加え、各生徒の到達度をより意識した校内検定に見直し、自分自身の改善すべき課題を明らかにした校内検定に見直していく。 ・アルバイトの事前指導制及び指導内容を見直す。
		面接指導・敬語指導・SPI練習・校内検定・課外等の充実を図り、全員の進路実現を目指す。	100%	A			
	進路ガイダンス・進路面談を低学年の早期段階から充実させる。	学年団と進路支援コーディネーターと連携し、早期の個別面談・相談体制を手厚く行う。	20回以上の進路行事	A	A		
		2年次では、全員対象に企業・学校見学会を新たに実施する。		A	A		
個の希望に合った進路実現を図る。	コミュニケーション能力の向上や挨拶・礼儀作法に重点を置き、指導する。		B	A			
	外部講師によるセミナー等の全体指導と進路面談等の個別指導を強化する。	個人面談3回以上	A				
図書研修	職員研修の充実	各分掌と連携して職員研修のテーマを精選し、校内研修会を実施する。	年7回	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の職員研修会は、今日的課題への対応を見据えた内容を実施した。今後は、教員としての専門的力量的の充実、深化を図る内容も積極的に取り入れていく。 ・「新たな学びプロジェクト」の成果をもとに相互授業参観や公開授業を実施し、授業改善を進めてきた。今後は、多様な生徒への対応を考慮した授業研究を各教科で検討するとともに、個の成長を評価できる評価方法の研修についても検討する。 ・朝読書や朗読といった図書委員会の取組は活発になっている。読書感想文コンクールなど次年度以降も「読書の推進による生徒の成長」を更に進めていきたい。 ・教育の情報化に伴うICTが徐々に充実する中、ICTを生徒の学習活動にどのように位置づけ、どのように活用するか職員研修会を通じて職員間で情報共有を図っていききたい。その上で、今後必要となるICT機器の導入の提案をしていき、授業の活性化に繋げたい。
		3年間の「新たな学びプロジェクト」研究成果を活かした授業改善を促す。	随時	A			
		研修の成果や課題をまとめた研究紀要を発行し、振り返りを促す。	年1回	A			
	授業研究の推進	生徒対象の授業アンケートを実施し、分析した結果を全職員で共有する。	年2回	B	A		
		相互授業参観期間を設定し、授業力向上のための意見交流を促す。	年2回	A			
		「主体的・対話的で深い学び」の授業実践報告書を作成し、提出することで、個々の授業研究の深化を促す。	年1回	A			
	図書館教育の充実	図書委員会を定例化し、図書館だよりの発行などの活動を活性化する。	委員会月1回 発行年3回	A	A		
		読書感想文コンクールを通して、読書の機会を増やし、読書への興味関心を高めさせる。	年1回	A			
		図書委員会による「朝の朗読」を通して、読書への興味を喚起する。	学期2回	A			
	情報教育の推進	視聴覚室とICT機器の簡易マニュアルを配布し、利用を促進する。	随時改善	B	A		
研修会や勉強会を利用し、ICT活用による授業を推進する。		随時	A				
タブレットや電子黒板を活用した授業改善のための研究を進め、その成果をまとめる。		通年	A				
保健環境	生徒の心身の健康管理と安全の保持	教育相談担当者間で気になる生徒の情報を共有し、今後の対応を協議する。	週1回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な生徒について、早期に実態把握を行い、各分掌やSC、SSW等と連携しながら支援内容を明確化する。また、職員間で理解や意識に差異が生じないように必要に応じて情報を共有する。 	
		スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員と連携し、問題を抱える生徒を支援する。	随時	A			
	美化意識の向上および教育環境の整備	美化委員会の取り組みを通してごみの分別を徹底させる。		A			
企画広報	PTA活動の充実	PTAの行事を充実した内容とし、保護者が参加しやすい環境をつくる。	年2回	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、PTA総会の内容を見直し多くの保護者に来校いただくことができた。また、各分掌と協力してPTA行事が充実するよう心掛けた。来年度も引き続き保護者が参加しやすい内容を計画したい。広報活動においてはホームページの定期的な更新で閲覧数をあげることができた。次年度も生徒の活躍を多く掲載するとともにさらにわかりやすいホームページの維持・管理をこころがける。 	
		PTA親子清掃活動の参加数を増やし、地域の美化に貢献できるよう、保護者や生徒と協力して清掃活動を行う。	年1回	A			
		PTA挨拶運動を実施し、声掛け見守り体制をとり、生徒の成長を支援する。	年5回	A			
	広報活動の充実	広報活動に活用する様々なパターンの短編動画やスライド、広報資料を用意する。	随時	B			
		生徒募集のための生徒・保護者対象の進路相談会を企画する。	年3回	A			
ホームページを利用して、本校の教育活動を学校内外に発信する。	随時	A					
第1学年	基本的生活習慣の確立	気持ちの良い挨拶、時を守る指導を行う。	通年	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や掃除、時間を守る等の基本的生活習慣を身に付けられた。今後も継続し、中だるみならぬよう指導していく必要がある。 ・様々な家庭背景を持つ生徒に配慮し、家庭との連携を密に指導した。今後も職員間で情報共有しながら、丁寧に指導していく必要がある。 ・個人レベルでの課題はさまざまであるが、今後も学校生活や行事を通し、他者と協働する姿勢や、目標を持ち行動できる姿勢を、学年で共有できる環境作りが必要である。 	
		自己管理の徹底。自ら確認し、物や時間の管理ができる習慣、自律心を育成する。	通年	B			
		学校や社会のルールを守り、他人を思いやり、協働する姿勢を育成する。	通年	A			
	基礎学力の定着及び態度の育成	授業規律を守らせ、意欲的な学習態度を育成する。	通年	A	A		
学力不足の生徒および希望の生徒を対象に特別学習を行う。		随時	A				
保護者等との連携	保護者やSC、SSWと生徒情報の共有を図り、連携した指導を行う。	随時	A	A			

第2学年	基本的生活習慣の定着	返事、挨拶の励行。部屋等への入室時の礼儀指導を事あるごとに行う。	随時	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守や挨拶などの基本的生活習慣において、徐々に改善する方向にある。不十分な生徒については今後の進路指導と合わせて習慣づけを行いたい。 ・学校行事やインターンシップ等、様々な活動に積極的に取組む姿が見られた。進路実現に向けて、今後は学校外の教育資源との連携を積極的に企画していきたい。 ・保護者との連携及びカウンセラー等の活用を通して、生徒の情報共有や手厚いケアができた。関係部署との連携を強化し、中途退学等の予防に努めていきたい。
	進路実現に必要な力の育成	早めの行動を取らせ、時間厳守を意識させる。時間内の活動は最後まで取り組む指導を行う。		B			
		授業規律を厳守させ、各教科担任と連携をとり基礎学力の向上を図り、キャリアアップに努める。		B			
	保護者、SC、SSWとの連携	インターンシップやオープンキャンパスを計画し積極的に参加させ進路意識の向上を図る。		A	A		
第3学年	基本的生活習慣の確立と最高学年として自覚ある行動をとる。	学年通信等で情報を発信し、事あるごとに電話連絡を行い生徒情報の共有を行い家庭との協力関係を築く。	学期毎	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員が進路実現を達成することができた。学年として生徒に早期に目標や目的意識をもたせ、持続させるかが3年間の課題であった。1年次からのキャリア教育の徹底と進路指導の重要性を認識し、学年団が共通理解のもと指導していかなければならないと確認した。 ・課題としてインターンシップの充実等、生徒が学校外の社会と関わる機会を増やし、社会で通用する実践的な力を育てていくことである。 	
		養護教諭、SC、SSWと連絡を取り生徒情報の共有を行い、生徒の理解や気持ちの安定を図り円滑なコミュニケーションが取れるように取り組む	随時	A			
	希望進路の実現を図る。	常に進路を念頭に置いた行動をとらせ、基本的生活習慣の改善と確立を図る。		B	B		
		周年行事等とおして学校のリーダーとしての自覚を育成し、最上級生として学校行事に積極的に取り組ませる。		A			
		個別指導や外部講師等を活用したキャリア教育を通じ、進路実現のための積極的な支援を行う。	希望進路100%	B			A
保護者や関係機関との連携を密にする。	進路決定や問題行動防止のため家庭との連絡を密にし、保護者の理解と協力を得る。		A	A			
食農科学科	進路実現を考えた特色ある学習活動を展開し、正しい職業観の育成を図る。	SC、SSW、訪問相談員との情報共有等を行い、生徒が安全・安心な学校生活を送れるように連携する。		A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も食農科の種類の在り方を検討していく。 ・地域連携の取組みで新商品開発（イチジク酢飲料）を開発し、地域貢献を実現した。 ・今後も地域農業を活性化しながら、拓かれた農場・農業教育を追求していく。 ・中学校に対して、農業教育の素晴らしさをPRしながら、農業の魅力について興味関心を醸成する。 	
		食農科の教育内容・各類型のあり方の課題を整理し、改善を図る。		A			
	地域共創の理念に基づき、学習成果を活かしながら、地域から愛され、活力ある農場づくりに努める。	生徒に農業の面白さを理解させ、農業クラブの活動を通して自己実現を目指し、更に今後の進路に繋げる。		A			A
		地域社会（自治体・地元企業・農業経営者）と連携しながら地域農業に貢献、グローバルな視点を持った生徒を育成、進路実現に繋げる。		A			
		「未来を切り拓く人材育成事業」等を活用し、専門教育の向上や地域に情報発信する取り組みを行なう。		A			
地元農産物を使った商品開発に取り組み、地域に愛される活力ある農場経営を行う。		A	A				
農場を活用しながら地域農業を活性化させ、先進的な農業経営を目指しながら「儲かる農業」の実現に繋げる。		B					
特別支援教育	特別支援教育に係る職員・生徒の理解を深める。	各学年の担当職員と情報を共有し、支援の必要な生徒への支援体制づくりを行う。	月1回	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会の趣旨を明確にし、課題を抱える生徒に対して実現可能な支援内容を協議する。 ・校内における支援計画の作成・活用システムを早急に構築する。
	支援が必要な生徒に対して適切な対応を検討し、支援を行う。	支援が必要な生徒に対しては、担任やSC、関連する各分掌と連携しながら随時相談や支援を行う。		A			
人権教育	人権・同和教育推進体制を確立し、生徒の人権意識の高揚を図る。	中学校、関係諸機関と連携を図り、集めた情報を基に分析を図り、生徒支援に役立てる。		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降もできるだけ多くの教師が人権教育の研修会に参加できるよう学年・分掌と連携を強化する。 ・訪問相談員の活用については、家庭訪問だけでなく校内での相談体制を作っていくことが必要である。 ・いじめ対策では今年度発生した事例の反省を踏まえて、教師がいじめのサインを見逃さない目を持つこと、また生徒から信頼される教師集団になれるよう努めていきたい。 ・就労保障については「言わない」「書かない」の取り組みを徹底していきたい。
		学年単位、クラス単位で人権・同和特設授業を行い、生徒の人権意識の高揚を図る。	年3回	A			
	生徒の実態を把握し、修学支援、進路保障の取り組みを進める。	学年や分掌と連携し、人権関係の各種研修会、学習会に積極的に参加し、教育活動の充実を図る。		A			
		中学校、関係諸機関、SSW、SC、訪問相談員と連携を図り、課題を有する生徒の情報収集と支援を進める。		B			
	いじめ対策教育相談委員会や生徒情報交換会とおして、全職員での生徒情報の共有化を図る。		A	A			
	「申合せ」違反等については、担任や進路指導部、ハローワークと連携を図り、進路保障の取り組みを進める。		A				